

<b>黄緑色系ブドウ‘ハニービーナス’の種なし処理技術</b>			
【要約】黄緑色系ブドウ‘ハニービーナス’は、開花前にストレプトマイシン液剤を花房散布し、 <u>開花始期</u> にジベレリン水溶剤による花房浸漬を行うことで、 <u>安定的な種なし栽培</u> が可能となる。			
農業技術振興センター・花・果樹研究部・果樹担当		【実施期間】平成21年度	
【部会】農産	【分野】高品質化技術	【予算区分】県単	【成果分類】研究

### 【背景・ねらい】

夏期の高温によりブドウの着色不良が予測されることから、果皮着色に影響されない黄緑色系ブドウとして、本県では‘ハニービーナス’を有力視している。しかし、‘ハニービーナス’は、種なし栽培において種子が残存しやすい欠点があるので、安定的な種なし処理技術の検討を行う。

### 【成果の内容・特徴】

開花前にストレプトマイシン液剤 200ppm を散布することで、種なし果率が大幅に向上する（表1、2）。

開花始期にジベレリン水溶剤による花房浸漬を行うことで、種なし果率が向上する（表1、2）。

表1 種なし処理方法

	開花前処理	第1回目ジベレリン処理
処理時期	開花約10日前	開花始期:開花始め～開花5割
使用薬剤	ストレプトマイシン液剤200ppm(1000倍)	ジベレリン水溶剤25ppm
処理方法	花房散布	花房浸漬

### 【成果の活用面・留意点】

安定的な種なし処理を行うには、芽かき等により新梢の勢力を揃え、開花期を揃えるようにする。なお、花房ごとの生育に差が見られる場合は、開花状況を確認しながらジベレリン処理を数回に分けて行うことが望ましい。

ストレプトマイシン液剤は、無種子化を使用目的に、満開予定日の14日前～開花始期に200ppmでの散布または花房浸漬で登録されている。

ストレプトマイシン液剤は、スピードスプレー等を用いて樹全体に散布することも可能である。

現在(平成22年3月12日現在)、ハニービーナスの無種子化を目的にジベレリン水溶剤を使用する場合、使用時期が満開時～満開3日後で登録されているため、開花始期には使用できない。

## [ 具体的データ ]

表2 ストレプトマイシン液剤の処理時期と種なし果率

試 験 区		種なし果率 (%)
SM200ppm (開花前散布)	GA25ppm(開花始期の花房浸漬)	92.2
SM200ppm (開花前散布)	GA25ppm(満開時の花房浸漬)	81.7
-	GA25ppm + SM200ppm(開花始期の花房浸漬)	60.2
-	GA25ppm + SM200ppm(満開時の花房浸漬)	51.9

\*SM:ストレプトマイシン液剤, GA:ジベレリン水溶剤

\*SM(開花前散布):満開予定日の14日前を想定し、5月15日にハンドスプレーで花穂に散布した。

\*開花始期の花房浸漬:開花始めから開花5割までの花房を対象とし、5月24日より生育状況に合わせて実施した。

\*満開時の花房浸漬:開花8割以上の花房を対象とし、5月27日より生育に合わせて実施した。

表3 ストレプトマイシン液剤の処理時期と果実品質

試 験 区		房型	房重 (g)	着粒数	1粒重 (g)	糖度 (Brix%)	酸度 (pH)
SM200ppm (開花前散布)	GA25ppm(開花始期の花房浸漬)	2.5	286.0	29.7	9.4	21.9	3.4
SM200ppm (開花前散布)	GA25ppm(満開時の花房浸漬)	3.8	362.0	30.1	11.7	21.8	3.5
-	GA25ppm + SM200ppm(開花始期の花房浸漬)	3.1	301.1	31.3	9.4	20.4	3.5
-	GA25ppm + SM200ppm(満開時の花房浸漬)	3.8	357.4	30.2	11.6	21.2	3.5

\*SM:ストレプトマイシン液剤, GA:ジベレリン水溶剤

\*果粒肥大促進処理は、満開10～15日後にフルメット液剤5ppm加用ジベレリン25ppmで果房浸漬とした。

\*房型は5段階(5:極良 4:良 3:やや良 2:やや不良 1:著しく不良)に分類。

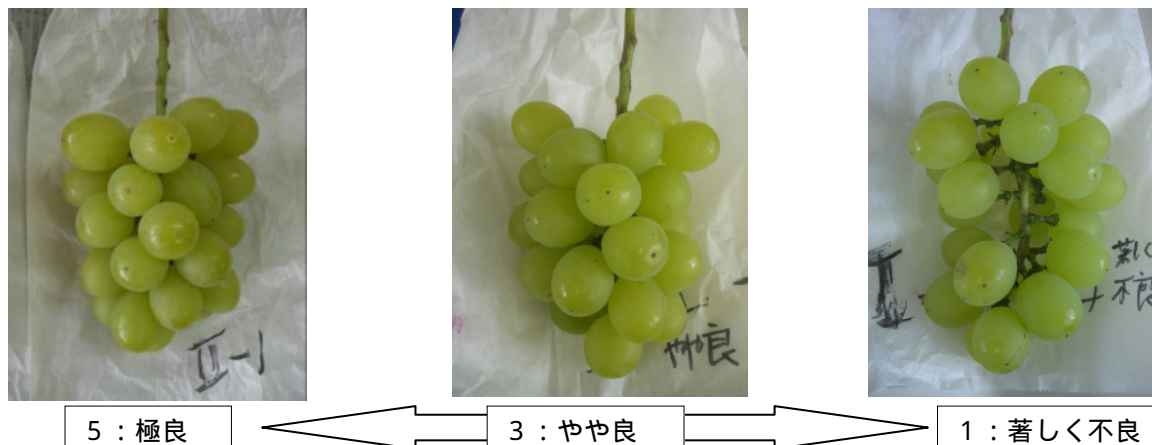


図1 房型の分類

## [ その他 ]

### ・研究課題名

大課題名: 消費者の多様なニーズに応える高品質・高付加価値化技術の開発

中課題名: 安全・安心・高品質な農畜産物の生産技術の開発

小課題名: 温暖化に対応し得る水稻・園芸作物の栽培技術の確立

### ・研究担当者名:

鈴村 悟 (H21)

### ・その他特記事項: